多煮茶茗、飲來如何、和調體內、散悶除痾、

〔調度歌合〕五番　左　てうし

みきとだに人は今さら思はぬを云ねてうしとや猶うらみまし

〔賤のをだ卷〕銚子もわざと小さくして、幾度も銚子をかへて、坐興のあるやうにして、扨盃もうすければ、さのみ酒も過サず、馳走ぶりも能樣に云たり、今は享和頃酒の手へかゝり、略中銚子も有合の大銚子にて、膳に露を打などいふことは取失ひて、辨利にのみ成行て、雅なることも風流なることもなし、

提子名稱

〔下學集不器財〕提子ヒサゲ

〔易林本節用集加器財〕金色提カナイロ子　〔同比器財〕提子ヒサゲテイス

〔書言字考節用集七器財〕銅提ヒサゲ酒器　提子同上

〔和漢三才圖會三十一庖厨具〕偏提　俗云比左介、又云加奈以呂、略中

按、偏提有系柄可提持、故名之、與銚子同、婚禮嘉祝之宴用之、今多以錫及白銅作之、俗呼曰加奈以呂、名義不詳、

〔倭訓栞前編二十五比〕ひさげ　枕草子にひさげと見ゆ、資暇錄に偏提と見え、拾遺記に、元和間謂之注子、仇子良惡同鄭注名、去柄安繫名偏提といへり、神宮雜例集に提と記せり、海人藻芥に提は右の手をもて持つ、左の手を寄と見えたり、

提子種類

〔今昔物語二十六〕利仁將軍若時從京敦賀將行五位語第十七

今昔、利仁ノ將軍ト云人有ケリ、略中サラ〳〵ト煮返シテ署預粥出來ニタリト云ヘバ、參ラセヨトテ、大ナル土器シテ、銀ノ提ノ斗納許ナル三ツ四ツ許ニ汲入テ持參タルニ、一盛ダニ否不食デ飽ニタリト云ヘバ、極ク咲テ集リ居テ、客人ノ御德ニ署預粥食ナド云ヒ嘲リ合ヘリ、